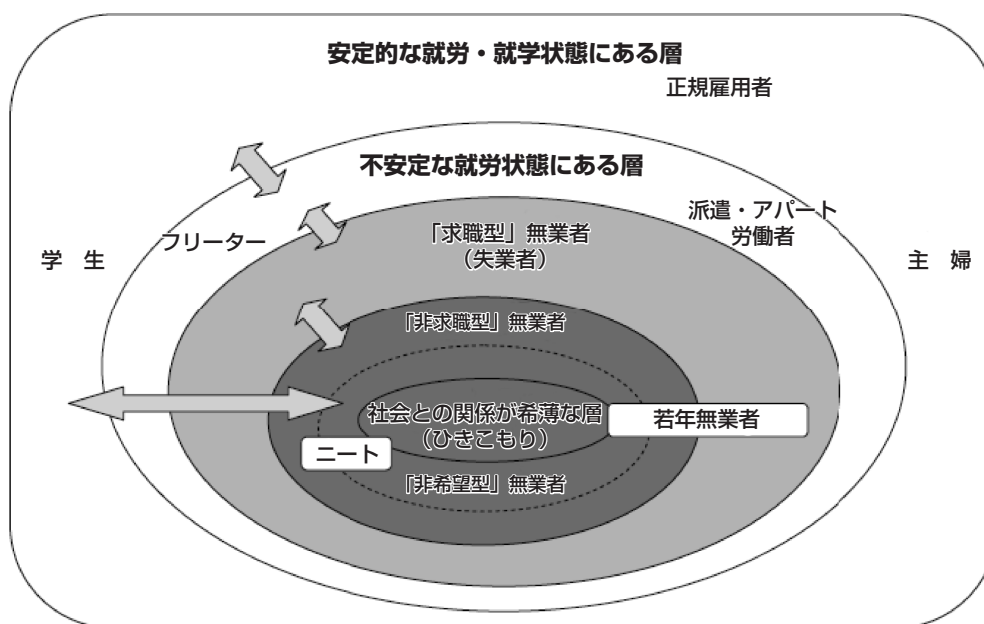


かった。働くことを先延ばししたり、自由を確保したいためにフリーターを選択している若者、離転職を繰り返す若者の増加を、「ニート」という概念を使って議論するようになり、「働く意欲を喪失した豊かな社会における病理現象」が関心の中心になったのである。

実態に即して整理しておかなければならないのは、選択したのではない無業者、非正規雇用・失業・無業の間を行き来している不安定就労者こそ、支援の対象とすべき若者だということである。それを放置すれば貧困は固定化し、その数が増加していくことで社会の統合性が脅かされることになるだろう。彼ら、彼女らは早期離学、低所得家庭出身、心身の疾病・障害、社会的孤立の状態など、さまざまな困難を抱えている若者である。

以上のことを踏まえて若者を層化すると、図1のようになる。これは社会との関係性を保持している程度や、就業の程度によって整理したものである。コアにいるのは、社会との関係性を断ち切り（断ち切られ）、活動性のレベルの低い状態にある若者である。しかし、多くの場合、若者は各状態の間を行き来している。2で述べた「退職型ニート」や「フリーター型ニート」はこれに当たる。その動的なプロセスに注意を払う必要がある。

社会経済的な自立支援の対象となる若年層の捉え方



- ※注1 「求職型」：無業者（通学、有配偶者を除く）のうち、就業希望を表明し、求職活動をしている個人
- ※注2 「非求職型」：無業者（通学、有配偶者を除く）のうち、就業希望を表明しているが、求職活動はしていない個人
- ※注3 「非希望型」：無業者（通学、有配偶者を除く）のうち、就業希望を表明していない個人
- ※注4 「ニート」：ニートという概念が最初に生まれたイギリスでは「NEET」（Not in Employment, Education or Training）とは「16～18歳の、教育機関に所属せず、雇用されておらず、職業訓練に参加していない者」と定義され、日本のような「働く気のない若者」というイメージは無いと言われている。

2. 異種混合概念としてのNEETのプラスは？

異種混合的なNEETという概念にはプラスの面もある。ファーロング氏が指摘するNEET